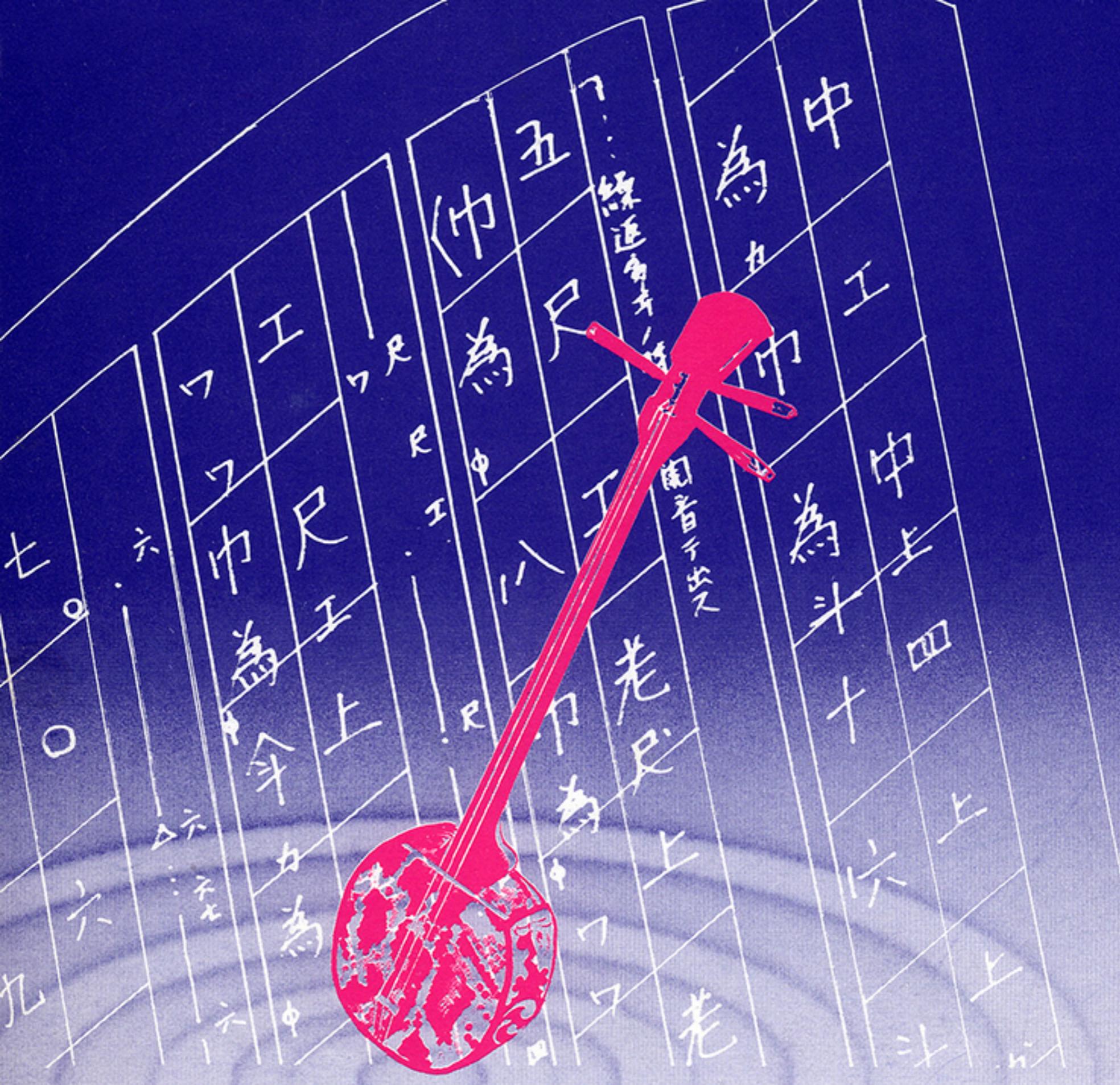


野村流古典音楽保存会関東支部十五周年

# 第三回 琉球古典音楽の会



田時

**平成五年五月二十二日(土)**

◆ ◆ ◆  
後主會場  
援催

東京都勤労福祉会館  
野村流古典音楽保存会関東支部  
東京沖縄人会

# ごあいさつ

野村流古典音楽保存会 関東支部長

仲宗根忠栄



本日はご多忙のところ当支部十五周年記念公演にご来場下さいまして誠にありがとうございます。

がとうございます。

私共は第二回琉球古典音樂の会から三年、ここに第三回琉球古典音樂の会を開催するはこびとなりました。これひとえに皆様方のご支援ご鞭撻のたまものと深く感謝申し上げます。

今回は特に当支部結成十五周年の記念すべき公演となり感無量なるものがあります。

今年は首里城の復元、NHKドラマ琉球の風、沖縄県立芸大の大学院設置、文化庁による琉球舞踊の海外公演等々沖縄ブームの再来となり琉球古典音樂や舞踊に対する認識の機運がもりあがりつつあり、東京における琉球音樂の窓口として私共の責任も大きくなるものと決意を新たにしているところでございます。

さて第三回公演プログラム第一部は古典音樂三曲で幕明けし、つづいて本調子独唱曲二曲、二揚独唱曲五曲をご鑑賞いただきます。本調子二曲は新人で特に伊野波節は純粹のヤマトの方でその豊かな声量と伸びのある声でどこまで沖縄の歌に迫ることができますか、しかとお聞き届けいただきたいと思います。箏伴奏は二曲ともベランと新人の教師が勤めます。次に二揚五曲は独唱曲の花形として広く人々に親しまれており当支部でも公演のたび毎に歌者と担当曲の交替を原則とし最重点演目としております。今回は前半の二曲は二十代の新人のはつらつたる歌いっぷりにご注目下さい。後半の三

曲は二揚独唱の名曲、難曲で一部のハイライトです。歌三味線・箏とも幹部教師クラスでここ数年の研究の成果をじっくりご鑑賞ください。

第二部は古曲音樂二曲を齊唱の後本調子独唱五曲をお届けします。前半の三曲は本部から特別出演の師範がきたえぬかれたワビサビのある声で聞かせます。はじめに歌三味線上地源照師・箏伴奏上原綾子さんで仲間節、次に歌三味線新里文英師・箏伴奏北村澄子さんで仲村渠節、つづいて歌三味線譜久原朝敏師・箏伴奏照屋芳子さんで赤田風節をお送りします。

独唱後半はじめは歌三味線・箏とともに当支部結成時からの会員で現役のベテランが本調子仲風節をお届けします。そして二部最後は当支部長・副支部長コンビによる本赤田花風節でしめさせていただきます。

第三部は琉球舞踊六番をご鑑賞いただきます。今回は在京琉舞界で活躍中の中堅・新鋭舞踊家の宮城洋子さん、関りえ子さん、金城禮子さん、川口恵美さん、前新要さん等によるバラエティにとんだ踊りを企画致しました。以上一部、二部、三部、三時間ほどのおつきあいでございます。

最後に本公演の後援をいただき玉稿をお寄せいただいた東京沖縄県人会長山口国雄氏、司会の津波古勝子さん、舞台監督・伊藤信氏と音響、照明等スタッフの皆さん、琉球舞踊、笛、太鼓でご出演ご協力をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。私共はこれからも琉球古典音樂の保存・継承・発展のため技術の向上に勤め、レベルアップを図る努力をして参りたいと思います。今後一層のご支援ご鞭撻をたまわりますよう心からお願ひ申し上げます。

平成五年五月二十二日

# 祝 辞

東京沖縄県人会 会長 山口国雄



このたび、野村流古典音楽保存会関東支部の仲宗根忠栄先生を中心とする皆さんが第三回琉球古典音楽の会を開催すると承り、心からそのご成功をお祈りしつつ、お祝辞を申しあげたいと思います。

私たちの結成十五周年を記念しての公演といふことのようで、その節目にふさわしい、琉球音楽の古典がお聞きできるものと大きな期待を寄せるものであります。

私は昨年、沖縄の祖国復帰二十周年と私たち東京沖縄県人会の創立三十五周年を記念して『如何が沖縄(チャーガウチナー)』といふ芸能公演を開催しました。在京県人の心にのこる催しといふことで、芸能公演ということになつたのですが、そのときも保存会関東支部の皆様にはいろいろとお世話になりました。厚く御礼を申し上げます。

さて、ふる里を離れて異郷の地に暮らしていると、サンシン(三味線)の音色はふる里そのもののように思えるものであります。沖縄では、暮らしの中に民謡があり、民謡の中に暮らしがあるからです。琉球音楽(民謡とよんでもよい)は、サンシン(三味線)を中心に発達してきました。俗にうた・サンシンといわれるゆえんでしょう。そして、沖縄流に多くの改良と工夫が重ねられて今日の主要楽器と

しての位置をしめるようになつたようあります。もちろんそれ以前は、唱えるように合唱したのでしょうか、人々の暮らしさは変化し、それだけでは満足しなくなつたでしょう。やがて琉歌の時代を迎え、よいよサンシンはなくてはならないものとなつていきました。有名なおもろ歌唱者として知られる「あかいんこ」が初めて沖縄でサンシンを使つて歌つたそうで、サンシンの始祖といわれています。その後、奏法や唱方などの研究と工夫がなされ、湛水親方を始めとして多くの天才が個性を發揮してサンシンによる古典音楽は確立されたのであります。中でも、屋嘉比朝奇の作り出した楽譜とそれに改良を加えて工工四として楽譜を完成させた野村安趙の功績は特筆すべきだと思います。その楽譜とともに声楽譜付野村流工工四が編集発行されて野村流の奏法が確立し、一般に普及して今日の琉球音楽の隆盛を見るに至つてゐるのであります。

そのサンシンや工工四是店へいけばたやすく手に入れるることは出来るのですが、それを自在に奏することはなかなか困難な事であります。まして、異郷の地で生活しながら郷土の芸能文化を学ぶといふのは並大抵ではありません。このような困難を克服して研鑽に励む皆様の努力に敬意を表さずにはおれません。

野村流古典音楽の保存・継承という高い志をもつて集い、関東支部を結成して十五年という記念すべき節目に日頃の研鑽を存分に披露され、所期の成果をおさめられることを念じてやまない次第であります。

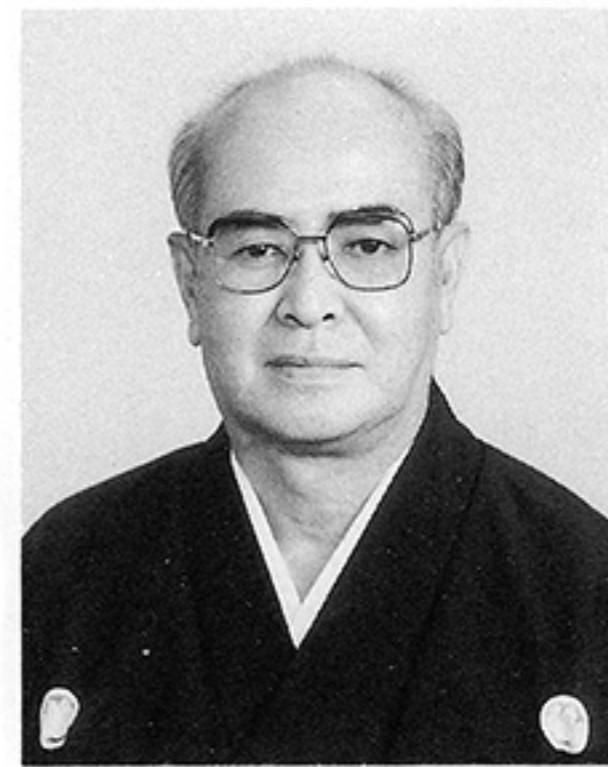
結びに、このたびの公演が有終の美を飾られますことを重ねて祈念申し上げまして祝辞と致します。

平成五年五月二十二日

祝

辞

野村流古典音楽保存会 会長 上地源照



野村流古典音楽保存会関東支部が結成十五周年を迎えた。ここに記念公演が開催されることは関係者として欣快この上なく心から慶祝の意を表する次第であります。

沖縄の芸能が今日の隆盛を極めている要因の一つに三線音楽の確立と普及があります。

三線がいつごろ伝来したかは定かでないが、十五世紀頃中国からはいり、時代の名工が独創的に作りあげ今に伝わる眞壁型、南風原型、知念大工型、久場春殿型、久葉の骨型、平仲知念型、与那城型等は沖縄三線を代表する型であります。

沖縄芸能の主軸ともいわれる古典音楽は十六世紀の湛水親方（幸地賢忠）によって確立され、以後多くの樂聖によつて継承改革が加えられていますが、一八六九年、野村流の祖である野村安趙が編集した「欽定樂譜」は古典音楽の画期的な楽典であります。

この楽典とともに「声楽譜付野村流工工四」が編集発刊され、野村流の奏法が確立されその普及に大きく寄与し、昭和四十七年（一九七二年）組踊は総合樂劇として本土復帰と同時に国の重要無形文化財として指定され、歌舞音曲はそれぞれ県の無形文化財としての指定を受け、県内はもとより本土やハワイ南北米にいたるまで今日の隆盛を見るに至っています。

錦地関東支部は地理的、経済的環境を超えたかつ地域文化との調和を計りながら永年修練を積まれ、加えて今回の栄えある記念公

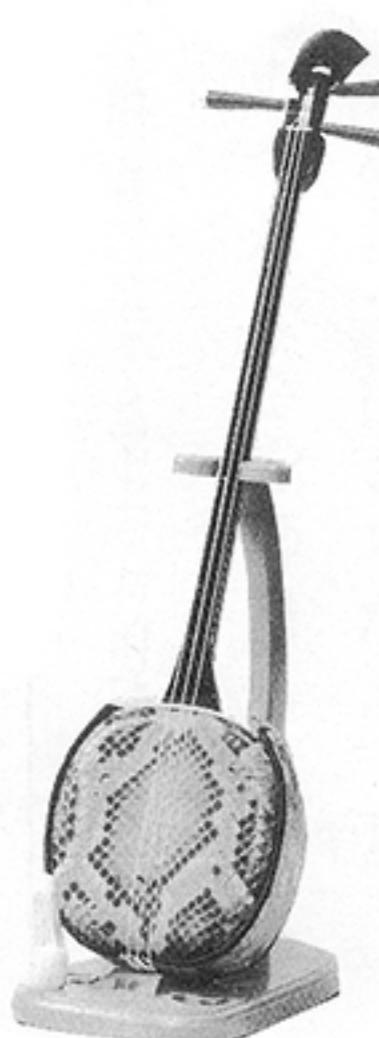
演の開催は支部にとつて一大事業であり準備かれこれ並々ならぬご苦労があつたとおもいますが、仲宗根忠栄支部長を中心に役員並びに会員皆様方が一体となつて実現に漕ぎつけられた熱意と取組に対し満腔の敬意を表するとともに心から拍手を送るものであります。

本部に於いては常日頃から支部の動静に少なからず関心を払つて来ましたが、今回の節目公演は又最大の関心事であり、ひたすらそのご成功を念願しております。

つきましては、支部結成以来今日に至るまでご苦労されてこられた歴代支部長や役員及び関係者の皆様方に對しましてあらためて感謝の誠を捧げる次第であります。

末尾になりましたが、野村流古典音楽保存会関東支部の限りないご発展を祈念申し上げましてお祝いのことばといたします。

平成五年五月二十二日



# プログラム

司会 津波古勝子

## 第一部 古典音楽

### 1 齊唱

#### かぎやで風節

今日のほこらしやや  
なほにぎやなたてる  
薔薇で居る花の露きやたごと

〔歌意〕

今日の嬉しいことは何にもた  
とえるものはない、丁度つぼ  
みが露を受けて元気よく開い  
たようである。

#### 中城はんた前節

飛び立ちゆる蝶  
まづよ待て連れら  
花の許我身や

〔歌意〕

飛び立つ蝶々(友達)よ一寸  
待ってくれ、私はまだ花の  
許に行つた経験はないので  
よく知らないから一緒に連  
れていてくれ。

ごえん節  
御縁あておとぎや  
いちやて嬉しさや  
うちはれて遊べ  
我身も遊ば  
〔歌意〕  
兄弟よお逢いできて幸せで  
す。さあ、心晴ればれとお  
どつて楽しみましょう。

歌・三味線  
久仲 仲宮 仲宗根  
田本 松城 根  
友潤 弥秀忠善  
昭英一夫栄久  
  
譜 新 上  
久原 里地  
朝文源  
敏英照  
  
陸大伊水名親  
城礼谷嘉真川  
明貞保亮郁佐  
美吉信介夫盛  
  
箏  
神土川北照  
谷屋崎村屋  
ケイ子富育澄芳  
美恵子子  
  
太鼓 賀数  
笛 国吉  
  
清 博

## 2 古典音楽独唱

### 恩納節

歌・三味線 陸 照屋 明子  
箏 神谷ケイ子

恩納松下に禁止の牌のたちゆす

恋しのぶまでの禁止やないさめ

(歌意) 恩納村の松並木の下に禁止の立札があるが恋愛すること迄禁止した立札ではないだろう。

### ごあいさつ

## 4 古典音楽独唱

### 千瀬節

歌・三味線 親川佐美盛  
箏 土屋富盛

里とめばのよでいやで言ゆめおやど

冬の夜のよすが互に語やべら

(歌意) 恋しいあなたに何で宿を拒みましょ

う。どうぞ、冬のよもすがら語り合いましょう。

## 3 古典音楽独唱

### 伊野波節

歌・三味線 水谷亮介  
箏 神谷ケイ子

にゆはのいしこびれむざうつれてのぼる

にやへもいしこびれとさはあらな

(歌意) 伊野波のけわしい石ころ坂道を彼女とつれだつて行く。あゝ、この道がもつともつと遠くまで、どこまでも続いてほし。

野村流古典音楽保存会 会長 上地源照

## 5 古典音楽独唱

### 子持節

歌・三味線 水谷亮介  
箏 北村澄子

誰ようらめとて泣きゆが浜千鳥

逢はぬつれなさやわ身もともに

(歌意) 浜千鳥よ、お前は誰を恨み悲しんで

泣いているのか。愛するものを失なつて逢えなくなつたつれなさは今のも同じなのだ。

## 6 古典音楽独唱

### 散山節

歌・三味線 仲松弥一  
箏 神谷ケイ子

まことかや実かわ肝ほれぼれと  
寝覚め驚の夢の心地

(歌意) この不幸な突発事は真実本当の事なのか、私はぼうぜんとし、寝覚の夢のようで信じられない。

### 述懐節

歌・三味線 久田芳子昭  
箏 照屋友子昭

きやならはもままよもつれ行く先や  
義理頼で浮世居らじよりか

(歌意) 二人のむつれ行く先がどうなろうと構わない。義理のままにこの世を送るよりも、恋に生き、恋に死んだ方がましである。

## 7 古典音楽独唱

### 仲風節

歌・三味線 宮城秀夫  
箏 川崎育恵夫

花の木蔭に住みなれていきやす  
なつかしやの別て行きゆが

(歌意) 恋人の許にすみなれてしまつて、今となつてはどうして悲しくて別れて行くことができよか。

## 8 古典音楽独唱

休

憩

## 第二部 古典音楽

### 1 齋 唱

#### 真福地のはいちゃう節

真福地のはいちょうや嘉例なものさらめ  
いきめぐりめぐり元につきやさ

(歌意) 真福地の「はいちゃう」は縁起の良いもので何度も廻り廻つて最後は元の所へ帰りついてくる実に目出度い幸福なものである。

**揚高禰久節**  
高ねくにのぼてまはい向て見れば  
かたほ船だい見ばまほとやゆる

(歌意) 高ねくに上つて南の方を眺めてみると片帆をもつた船と思つたらそうでもなくとも帆をもつた船であつた。

|      |   |            |               |         |
|------|---|------------|---------------|---------|
| 賀    | 国 | 神川 北 照     | 水 親 久 仲 宮 仲宗根 | 【歌・三味線】 |
| 数    | 吉 | 上原 谷崎 村屋   | 谷川 田松 城根      |         |
| 【太鼓】 | 笛 | * 綾 育 澄 芳  | 亮佐 友 弥 秀忠     |         |
| 清    | 博 | 子 ケイ 子 恵 子 | 介盛 昭一 夫 栄久    |         |

### 2 古典音楽独唱

#### 仲間節

歌・三味線 上 地  
上 原 地  
綾 源  
子 照

わがみつでみちど  
よその上やしゆる  
むりするな浮世  
なさけばかり

(歌意)

わが身をつねつてはじめて他人の痛みがわかる。人間はすべて同じだから、無理をすることないように浮世は情で渡つて行く方がよい。

### 3 古典音楽独唱

#### 仲村渠節

歌・三味線 新里文英  
箏 北村澄子

仲村渠すばいどますだれはさげて

あにあらはもとまばしのでいまうれ

(歌意) 仲村渠家は、厳格な家ですから裏側の戸にすだれを下げる場合は監視の目がなく大丈夫ですから、それを確めてから忍んでいらっしゃい。

### 4 古典音楽独唱

#### 赤田風節

歌・三味線 譜久原照屋朝子敏  
箏

赤田門やつまるとも

恋しみもの門やつまてくいるな

(歌意) 赤田門は別に通りぬけができるので

閉まつてもかまわないと通りぬけるもの門はいつたん閉ると通りぬけができないので願わくば閉まつてくれるな。

### 5 古典音楽独唱

#### 本調子仲風節

歌・三味線 仲宗根善久  
箏 土屋富美久

語りたや 語りたや

月の山の端にかかるまでも

(歌意) 語り合いたい、語り合いたい、月が山かげに隠れて暁になるまでも…。

### 6 古典音楽独唱

#### 本赤田花風節

歌・三味線 仲宗根忠子栄  
箏 照屋芳子栄

花と露の縁あたらませ

我身のやゝ毎に御側添やい居らめ

(歌意) 恋しい人と私の間に花と露のような縁がありたい。もしそうなら、毎夜のように私は御側につき添うているであろう。

# 第三部 琉球舞踊

## 1 むんじゅる

踊る人 宮城洋子琉球舞踊研究所

宮 城 洋 子

## 2 前の浜

踊る人 金城禮子舞踊研究所

金 城 禮 子

**[1] 歌詞**

若さ一時の通い路の空や  
闇のさく坂も車とう原

(早作田節)

むんじゅる平笠清らものや女童真頂に  
ちい据せて「清らものや」

花染手巾や前に結で二才惚らしもの  
「花染やう」

(前之濱節)

工ヰ工ヰ前の浜に前の浜に散り飛びゆる  
サ一浜千鳥 工ヰサ一友呼ぶ声は  
ちりちりやちりちりや

工ヰ工ヰ渡地の渡し舟漕ぐ舡の

サー櫓の音かエキサーからりころり

漕けば行ぎやい来きやい

工ヰ工ヰ今日の座敷は祝いの座敷

亀が歌えばナー鶴は舞ふる鶴は舞ふる

亀が歌えばナー鶴は舞ふる

エキエキ上り下りの坂原越えて

元の都にナーはや帰るはや帰る

元の都にナーはや帰る

(坂原口説)

嘉例吉の遊び打ち晴れてからや

エイスリスリ

夜の明けて太陽の上るまでも

アスリ足拍子手拍子打ち囃子踊り

跳ね遊ぶ嬉しさ

エイスリスリ

夜の明けて太陽や上らはもゆたしや

アスリ足拍子手拍子打ち囃子踊り

跳ね遊ぶ嬉しさ

エイスリスリ

巳午時までや御祝しやべら

アスリ足拍子手拍子打ち囃子踊り

跳ね遊ぶ嬉しさ

エイスリスリ

さらば天川や島横になとい

できやよ立戻ら昨夜の時分

(赤山節)

太鼓 箏 笛 賀数 清 博 恵 善 国 吉 仲 松 弥 宮 城 秀 一 夫 栄

赤山芋蔓先エ一  
すらにむでくゆいヤリクヌ  
で我ね思里とけむでくらな  
ハラユキユキヤリクヤリクヌ  
忍で語らたる中のあしやげ  
ハラユキユキ

（揚芋の葉節）

（与那原節）



## 5 トウバラーマ

踊る人 東京竹富民俗芸能研究会

前 新 要

|    |    |       |
|----|----|-------|
| 太鼓 | 笛  | 箏     |
| 賀数 | 国吉 | 北村    |
| 清博 | 澄子 | 佐盛    |
|    |    | 歌・三味線 |

(安里屋節)

天川の池やヨーアヌンゾヨー  
チカユテイハナサナヤ  
シタリヨーンゾハキヤイヤッサ  
思てたばうれヨーアヌンゾヨー  
チカユティハナサナヤ  
シタリヨーンゾハキヤイヤッサ  
おれよりも深く  
千尋も立ちゆら  
(加那よー節)

四、なゆやりやどうんぱですヤウ  
如何やりやどうゆむですヤウ  
ウヤキヤウヌユバナヲレ  
あたりようややくれゆむヤウ  
ウヤキヤウヌユバナヲレ  
当りようやぬ望みようたヤウ  
ウヤキヤウヌユバナヲレ  
三、目差主やばなんばヤウ  
あんちゅらさ生りばしヤウ  
ウヤキヤウヌユバナヲレ  
二、目差主ぬ乞よたらヤウ  
ウヤキヤウヌユバナヲレ  
一、安里屋ぬくやまにヤウ  
あんちゅらさ生りばしヤウ  
ウヤキヤウヌユバナヲレ

6 加那よ天川  
踊る人 玉城流七扇会東京支部  
関りえ子舞踊研究所  
中村志津子  
前新要

## 5 歌詞

一、思いの深さあきらめならぬ

またんいかり語らい

みらるばライラ

んぞしぬ語らいみらるばら

二、染みてい染みらば花ぬ紺染ゆ

浅染や免し給ぼりライラ

んぞしぬ免し給ぼり

三、風ぬ声ばうらでど聴き起け

月ぬ光んが面影見らりようりライラ

んぞしぬ面影見らりようり

(とばらーま節)

一、安里屋ぬくやまにヤウ

あんちゅらさ生りばしヤウ

ウヤキヤウヌユバナヲレ

二、目差主ぬ乞よたらヤウ

ウヤキヤウヌユバナヲレ

三、目差主やばなんばヤウ

ウヤキヤウヌユバナヲレ

四、目差主やばなんばヤウ

ウヤキヤウヌユバナヲレ

五、目差主やばなんばヤウ

ウヤキヤウヌユバナヲレ

ウヤキヤウヌユバナヲレ

ウヤキヤウヌユバナヲレ

(安里屋節)

## 6 歌詞

一、カナヨー面影の立てばヨー

カナヨー宿に居らりらぬ

ハルヨーンゾヨー

カナヨー遊で忘ら

ハルヨーンゾヨー

カナヨー遊で忘ら

(天川節)

## 特別出演者の略歴



上地 源照  
師範



新里 文英  
師範

昭和二年名護市川上で出生。昭和二十九年野村流師範奥浜思博先生に師事、本格的に研究に取組み、同四十一年琉楽金賞、同四十三年師範免許取得、同五十八年湛水流師範免許を取得、同五十九年沖縄タイムス芸術選賞大賞を受賞する。

国立劇場琉舞公演、東宮御所琉舞披露など本土公演やハワイ、ロス公演等外国公演も数多くに及んでいる。

現在、沖縄県無形文化財指定沖縄伝統舞踊保存会技能保持者（三線）  
国指定重要無形文化財組踊保持者（三線）  
沖縄県芸術祭運営委員（古典芸能部会）  
野村流古典音楽保存会会長、沖縄タイムス芸術選賞古典音楽部門選考員等の要職にある。

大正十五年本部町字渡久地で出生。昭和三十一年野村流古典音楽保存会入会、同四十一年教師免許取得、同四十五年野村流大全集レコード吹込、沖縄タイムス芸術選賞最高賞を受賞する。

同四十八年師範免許取得、同五十六年沖縄タイムス芸術選賞奨励賞を受賞する。

平成四年沖縄タイムス芸術選賞大賞を受賞する。

現在、野村流古典音楽保存会師範教師選考委員、工工四編集委員、組踊地謡研究部会副部会長、中部支部評議員、野村流合同協議会委員会計係、沖縄タイムス芸術選賞古典音楽三線審査員、野村流古典音楽保存会副会長の要職にある。



沖縄復帰15周年記念 第1回琉球古典音楽の会 昭和62年6月23日 於：国立劇場演芸場



譜久原 朝敏  
師範



上原 綾子  
師範

大正十五年久米島具志川村字仲泊で出生。

昭和十八年沖縄県立農林学校卒業。同三十六年、野村流古典音楽保存会城間徳太郎先生に師事、本格的に研究に取組み、同四十四年教師免許取得、同四十五年沖縄タイムス芸術選賞最高賞を受賞する。

那覇市真嘉比在住、昭和二十二年生まれ。昭和三十一年亀谷ウト師匠に師事し、同四十三年箏曲保存会教師免許取得、沖縄タイムス芸術選賞最高賞を受賞する。

昭和五十年保存会師範免許取得、同五十六年国指定及び県指定無形文化財(芸能の部)後継、同五十七年芸術選賞グランプリ受賞する。

昭和六十二年県指定重要無形文化財組踊後継、平成三年沖縄タイムス芸術選賞大賞を受賞する。

県内外の公演活動や保存会の幹事、評議員監査役等をつとめ、現在、野村流古典音楽保存会副会長の要職にある。

現在、沖縄芸能協会評議員、沖縄タイムス芸術選賞箏曲最高賞審査員等の要職にある。



第2回琉球古典音楽の会 平成2年3月23日 於：国立劇場演芸場

# 出 演 者

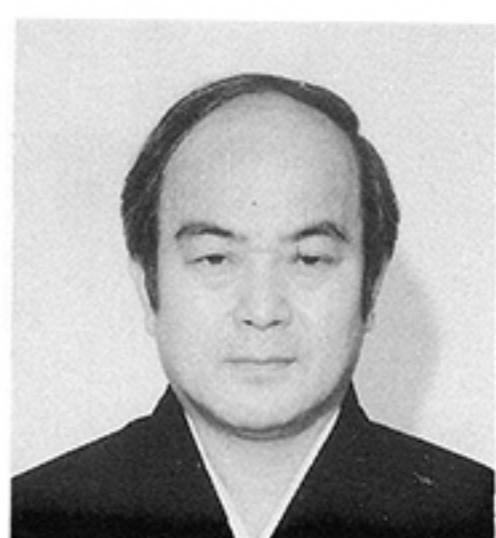
歌・三味線



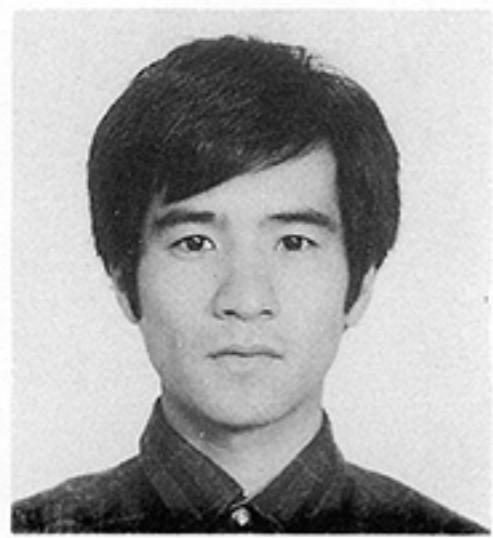
教師 宮城秀夫



教師 仲宗根忠栄



師範 仲宗根善久



親川佐盛



久田友昭



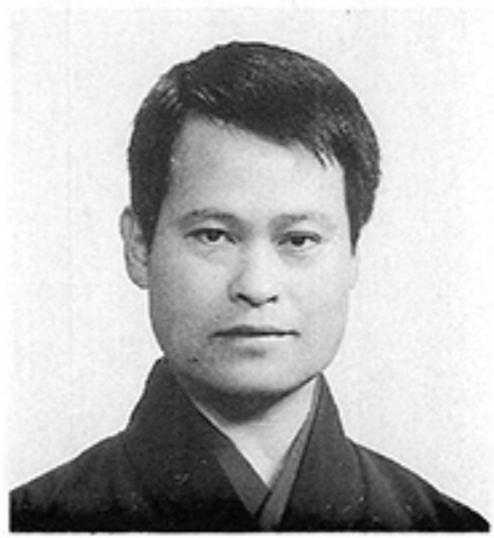
教師 仲本潤英



教師 仲松弥一



大城貞吉



伊礼保信



水谷亮介



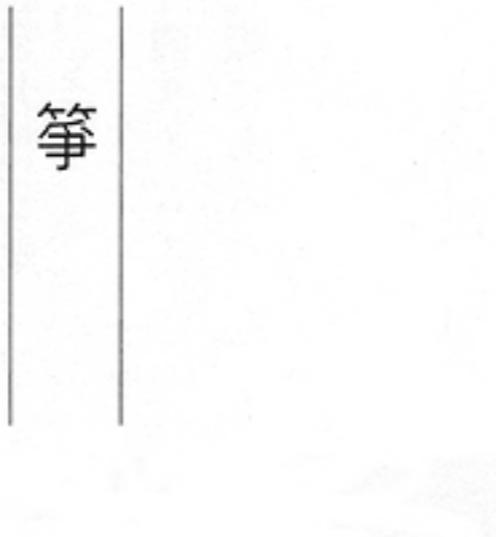
名嘉真郁夫



教師 北村澄子



教師 照屋芳子



箏



陸明美



土屋富美



教師 神谷ケイ子



教師 川崎育恵

贊助出演



賀 数 清

太鼓



国 吉 博

笛

琉球舞踊



中 村 志津子



関 りえ子

玉城流七扇会  
関りえ子琉球舞踊研究所



宮 城 洋 子

宮城洋子  
琉球舞踊研究所

東京竹富民俗  
芸能研究会



金 城 禮 子

金城禮子舞踊研究所



川 口 恵 美

琉球舞踊千歳会



前 新 要

司会



津波古 勝 子

## スタッフ

◇企画 仲宗根忠栄  
◇構成・演出 宮城秀子  
◇舞台監督 照屋芳子  
◇音響 古川信和  
◇照明 村山寛  
◇司会 津波古勝子  
◇箏調絃 上原綾子  
◇制作 野村流古典音楽保存会関東支部  
◇事務局 会川崎育恵  
◇会計 陸谷ケイ子  
◇プログラム編集 北村澄子  
◇印刷 (株)アド・企画

野村流古典音楽保存会関東支部

## 編集後記

▼野村流古典音楽関東支部創立十五周年記念と第三回琉球古典音楽の会の公演プログラムの編集をとおし、あれこれ想うことが多く、若干、追記させていただきます。

▼先ず、十五周年記念を機会に「記念誌」作りをしたかった。その必要性は当初から言われていましたが、ついに実現できずじまいになってしまいました。五年後の二十周年記念には、是非、実現したいと思います。

▼次に、私たちが忘れてはならない関東支部に功績のあつた先輩のことです。ここ一・二年の間に相次いで他界された創立時からの会員で第一代支部長金城芳子先生、第三代支部長仲宗根八重子先生、創立時の役員川満一嘉先生、同石垣安義先生方は、支部結成以前から東京でご活躍され、関東支部結成に当たって、多大なご尽力をたまわった方々だと聞いておられます。心からご冥福をお祈りします。

▼更に、東京でお稽古することの厳しさです。なにしろ狭い土地に見知らぬ人達がひしめいている生活環境では、練習場の確保がことのほか大変です。一寸した騒音でも苦情を言われ、公園に車を乗り付けて車の中でお稽古したり、川の土手下で三味線を弾いて稽古したり、三味線の駒を胴の両脇にまたがる大きさにして

音が出ないように工夫したり、お琴全体に薄い布をかぶせて外部に音が漏れないよう工夫したりして練習するなどの苦心談があるのであります。

その上、師匠宅までの往復時間といえば練習時間よりも長くかかることもあります。少なくとも、都内は各区ごとに一人の三味線の師匠がほしいのです。

▼舞台上の演奏は華やかに見えても、そこに至までの各演者の努力は並大抵ではないのです。それに指導者(師匠)不足があります。少なくとも、都内は各区ごとに一人の三味線の師匠がほしいのです。

又、琴についても同様です。

▼当支部所属研究所に東京で琉球音楽に興味を持つ東京芸大や沖縄県立芸大の学生・受験生その他若い人たちも指導を受けに来ており、東京は遠からず琉球音楽の市場として脚光をあびること間違いなし、と明るい希望と期待をもつております。

▼私達会員がこれから野村流古典音楽の保存・継承を関東支部の責任として行うため、研鑽を積み、もり立て、東京一の会場で毎年琉球古典音楽の会が開催できるよう、その普及と発展のため頑張つていくことを心から思っています。

平成五年五月二十二日

北村澄子

## 師範・教師紹介

師範 仲宗根 善久  
〒160 新宿区西新宿7-19-22-804  
TEL 03-3368-0764

教師 宮城 寛一  
〒181 三鷹市上連雀5-29-19  
TEL 0422-44-4744

教師 土屋 富美  
〒154 世田谷区野沢1-29-13  
TEL 03-3422-0690

教師 高橋 ツル  
〒125 葛飾区東水元2-34-23  
TEL 03-3600-7337

教師 玉城 ユキ  
〒202 保谷市泉町5-8-2  
TEL 0424-21-5793

教師 仲宗根 忠栄  
〒121 足立区保木間2-20-6  
TEL 03-3883-5596

教師 宮城 秀夫  
〒164 中野区弥生町4-10-10  
TEL 03-3838-6426

教師 仲松 弥一  
〒134 江戸川区西葛西6-19-12 サンライズ西葛西703  
TEL 03-3804-3644

教師 仲本 潤英  
〒227 横浜市緑区鴨居町7-5-6  
TEL 045-933-9329

### 筆

教師 照屋 芳子  
〒171 豊島区要町3-3  
TEL 03-3957-0707

教師 北村 澄子  
〒157 世田谷区砧2-20-14 サンハイム大木405  
TEL 03-3415-9874

教師 川崎 育恵  
〒166 杉並区阿佐ヶ谷北1-42-13  
TEL 03-3338-4862

教師 神谷 ケイ子  
〒120 足立区青井1-18-3  
TEL 03-3840-8574